

議 事 概 要【ホームページ公表用】

| 内 容 |   |
|-----|---|
| 会議名 | 令和6年(2024年)度第2回豊中市障害者差別解消支援地域協議会代表者会議   |
| 日 時 | 令和7年3月27日(木) 14時00分～16時00分  |
| 場 所 | 市立障害福祉センターひまわり会議室1・2  |
| 出席者 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員 16名(市職員、当事者会、家族会、福祉及び介護、大学等)</li> <li>・アドバイザー 1名</li> <li>・オブザーバー 1名</li> <li>・事務局 5名</li> </ul> |
| 欠席者 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員 6名(市職員、当事者会、家族会、福祉及び介護、大学等)</li> <li>・アドバイザー 1名</li> <li>・オブザーバー 2名</li> </ul>                   |
| 議 案 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談事例の共有について</li> <li>・実務者会議について</li> <li>・その他</li> </ul>  |

|             |   |
|-------------|---|
| <p>参考資料</p> | <p>(事前配布資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 配布物「豊中市障害者差別解消支援地域協議会の運営について（お願い）」</li> <li>・ 資料 1-1「令和 6 年度障害者差別・合理的配慮の不提供に係る相談事例（概要）」</li> <li>・ 資料 1-2「合理的配慮の要望または障害者差別の相談等の事例について」</li> <li>・ 資料 2-1「実務者会議について」</li> <li>・ 資料 2-2「実務者会議のアンケート集計」</li> </ul> <p>(当日資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 座席表</li> <li>・ 代表者会議名簿</li> </ul> |
|-------------|---|

## 会 議 内 容

事務局による開会宣言。

### 1. 会長挨拶

松岡会長による挨拶。

事務局より委員の出欠状況について報告、資料の確認、運営の説明。

### 2. 相談事例の共有について

(事務局)

- ・資料 1-1「令和 6 年度障害者差別・合理的配慮の不提供に係る相談事例（概要）」、資料 1-2「合理的配慮の要望または障害者差別の相談等の事例について」に基づき説明。

(委員)

相談者がなぜ混乱しているのか気になった。相談者が「今の仕事をしていては駄目だ」と思い込んでしまっている状態である。対応者も誠実に対応していると思う。こういったトラブルを減らす方法は、友達に相談するなど、手前にワンクッションあれば起きにくいのではないかと感じた。

(委員)

発達障害の人で普通の高校や大学を出た人は、就労を誰に相談したらいいのか分からない場合も多いと思う。親の会や家族の会に入っている人は先輩に教えてもらえるけど、入っていない人は障害者の就労に対しての情報が少ないと思う。

(委員)

精神疾患のある人の話を聞くと、通院している病院で担当の医者に相談されるケースが多い。そもそも自分が今、働けるのか、働いていいのかという判断や、相談ができるセンターにつないでももらえる場合もある。

(委員)

市内 7 圏域に地域の総合相談窓口として障害者基幹相談支援センターがあるので相談してほしい。個人的な意見ではあるが、私も失敗があったから考えて次はどうするかと考えた。失敗することも大事であると思う。

(委員)

良くある話で「そんなことは言っていない。」とのことであるが、念押しで本当になかったのか。また、メールでは受け付けないということは、「聴覚障害のある人を原則、受け付けない。」と聞こえる、その真意は。

(事務局)

相談者とのやりとりで相談に乗っている人がいたので、相手方は「その人の同伴はどうか。」と聞いたが、そのことが、「同伴者が必要だ。」と印象に残ったようである。また、相手方は、深い相談になると書き漏れが出たりするので、メールでのやりとりは難しい。しかし、簡単なやりとりは可能であると考えているが、相談者は相手方とのやりとりからメールでは受け付けてもらえないと受け付けとめるなど、お互いにボタンの掛け違いがあったようである。

(アドバイザー)

学校では、これから障害のある人が相談できるスクールソーシャルワーカーを養成して、学校で相談ができる仕組みをつくっていくことが大事である。また、同じ障害のある人が相互に助け合えるセルフヘルプの仕組みをサポートすることも必要であると思う。

相談を受ける側も同伴者や支援者がいないと相談ができないという思い込みがあり、そこをどう変えていくのかというところが、大きなテーマであると思う。

## 2. 実務者会議について

(事務局)

- ・資料 2-1「実務者会議について」、資料 2-2「実務者会議のアンケート集計」に基づき説明。

(委員)

当事者の方が、自分たちの障害について、ちゃんと語れるかというところ、そういう障害ばかりではない。言葉も発せられない重度障害のある人もいる。

発達障害の場合、特性が千差万別で人によって違い過ぎるので、特定の人の話を聞いて、「発達障害ってこんなもんや」と思ってもらうことは、絶対避けていただきたい。発達障害の全体的な話ができる人を呼んで、全体的なことを学ぶ機会にしたい。

当事者ご本人の話を聞くというのも貴重な機会だと思うが、当事者から学ぶことに拘らず、柔軟に考えてほしい。

(委員)

精神障害もほぼ同様のことが言える。しかし、当事者の方に来てもらうことは、おそらく意味があるのではないかと思う。当事者の人が、直接自分の症状について、誰かに話ができる機会はなく、自分のことを知ってほしいと思ってもそのような機会がないと思う。

(委員)

行動障害や知的障害の重度の方も知ってほしい。

(委員)

障害のある人を見ているだけで、気付きがあると思う。養護学校に行っていたときも、全然コミュニケーションがとれない障害のある人が同級生で何人もいたが、1年、2年過ごせば、言葉がなくてもコミュニケーションができる。講演というスタイルではない方法もあると思う。

(会長)

講演も一つのやり方だし、もっと別のいろんなやり方があっていいと思う。ワークショップやグループワークみたいなものでも良いかもしれない。一方的に話を聞くだけではなく、皆さんでいろいろなやりとりをしながらというのもあると思う。何らかの仕掛けはいろいろあっても良いかと思うので、お話をさせていただく方にとって、一番いいやり方、あるいは障害を学んでいくうえで、一番いいやり方を採用したいと思う。

人に語るということは、自分が一番整理して、自分の考えや経験を整理していくということだと思う。それを専門的に言うと、「ヘルパーセラピー原則」と言うが、助けることが、一番助けられているということである。

(委員)

当事者の話を聞かないと、知らないことが多いと思う。

(委員)

当事者から学ぶことは大事であると思う。障害のある人の親としても、理解しているつもりが未だに新しいことが分かる。学びというのは必要であり、それを一般市民の方に啓発していくことが私たちの役目でもある。知的障害のある人の合理的配慮などの事例が少ない。当事者が言葉にできないという部分があるため、当事者の最善の方法を常に考えているヘルパーに話をしてもらうことも一つである。

(委員)

精神障害の親の立場から言うと、一人ずつ行動も症状も違う。皆さんに知ってほしいと思うが、機会がない。ただ、本人が話をするのは難しいので、支援者の人から話をしてもらうのは良いと思う。

(アドバイザー)

当事者の思いを感じることで、全体的なことを理解されている支援者の話を聞くこと、お互いの本音を聞けるようなプログラムが良いと思う。

(オブザーバー)

お客様として、アクティブシニア世代の方と接する機会が多いが、説明する側にも責任があり、専門用語や横文字での説明になりがちである。今日はあらためて、伝えるということは難しく、相手のことを思いやって対応しなければいけないと改めて認識させ

られた。また、当社でも様々なハンディキャップのあるスタッフがいる。一般企業でも勤めている方がいるので、そういった声も当事者の声だと思う。

(会長)

アドバイザーが言われたとおり、当事者と全体的なことがわかる方のお話しのバランスを取りながら学びを深めていきたいと思う。

#### 4. その他

(事務局)

次回開催予定

(委員)

詳細は文書にして提出するが、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する豊中市職員対応要領」の改正に関する本代表者会議への意見聴取は書面にて開催されたが、根拠法が障害者差別解消法であるため、書面ではなく対面での会議ができなかったのかを問題提起したい。

(会長)

本協議会は審議会ではなく、意見交換の場であることや、年度末で参集も難しいということがあった。このような形でよいとは思っていないが、事務局からも相談があり書面開催としたものである。

(会長)

閉会挨拶